

**製品名: MAP1B ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13623**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	271kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAP1B
別名	MAP1B
遺伝子 ID	4131.0
SwissProt ID	P46821
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 480~560

**背景**

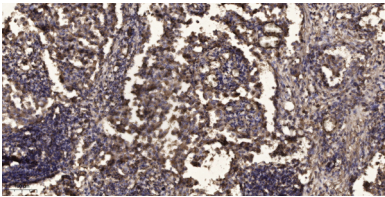
この遺伝子は、微小管関連タンパク質ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このファミリーのタンパク質は、神経発生の必須ステップである微小管の組み立てに関与していると考えられています。この遺伝子産物は前駆体ポリペプチドであり、おそ

らくタンパク質分解プロセッシングを受けて最終的な MAP1B 重鎖と LC1 軽鎖を生成します。マウス微小管関連タンパク質 1B 遺伝子の遺伝子ノックアウト研究は、この遺伝子が神経系の発達と機能において重要な役割を果たすことを示唆しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: KKEE および KKEI/V 配列のコピーが多数含まれる高塩基性領域を有し、これらは一定間隔ではなく繰り返されており、MAP1B の微小管への結合を担っています。機能: 脳 MAPS の機能は基本的に不明です。リン酸化 MAP1B は、神経突起伸長に伴う細胞骨格の変化に関与している可能性があります。MAP1B は、ポリマー中の少なくとも 2 つのチューブリンサブユニットに結合し、このサブユニットの架橋は微小管重合の核形成と微小管の安定化に関与している可能性がある。PTM: LC1 は、タンパク質分解によって MAP1B から生成される。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: MAP1 ファミリーに属する。サブユニット: 3 つの異なる軽鎖 (LC1、LC2、LC3) は、MAP1A および MAP1B タンパク質と結合することができる。LC1 は MAP1B のアミノ末端領域と相互作用する。ANP32A および TIAM2 と相互作用する (類似性による)。GAN と相互作用する (C 末端を介して)。(Kelch ドメインを介して)。

## 研究分野

神経学プロセス; 神経発生; 神経科学; 細胞型マーカー; ニューロンマーカー; 軸索マーカー; 神経科学マーカー; ニューロン; 細胞接着タンパク質; 細胞骨格タンパク質; 微小管; シグナル伝達; 細胞骨格 / ECM; 細胞骨格; 微小管; MT 関連タンパク質; MAP; タグと細胞マーカー

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト肺扁平上皮癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45 分)。